

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2600500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 (4F)		
所在地	京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日	平成27年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成27年7月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが満床になり、各階利用者さんは機嫌よく生活をしておられます。小規模多機能は6月現在宿泊3名、通い1名利用されていますが、まだまだ沢山利用して頂きたい努力をしています。住み慣れた地域で自宅での生活を主とし、訪問で家事の手伝い等をさせて頂き、時には小規模の施設に遊びに来て頂く、といったサービスを利用して頂けたら生活にも張り合いが出てくるのではないかと思います、小規模多機能のしほみを沢山の方達に知って貰いたくアピールしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南区上鳥羽の京都南インターに程近い地に、大阪に拠点を持つ有限会社「さざなみ」が平成二十五年三月に地域密着型事業所「さざなみ京都南」を開設された。五階建て一階は小規模多機能・二階から四階はグループホームユニットとなっている。五階は現在空き室になっているが、地域交流の場として活用する事を検討している。周囲は畑が多く、地場産業である「九条ネギ」が栽培されて静かな生活環境である。事業所の理念の中に表明している様に、地域との交流を大切にしている。定期的な清掃活動や地域行事の参加・職場体験の生徒の受け入れ・訪問/バン屋の利用・ボランティアの受け入れ等など、地域住民・入居者・事業所が共に手を携えて楽しく暮らして行ける様に実践を重ねている。更に、医療との連携が密である。協力病院の訪問医が、入居者全員の主治医となるのではなく、一人ひとりの主治医制(担当)を取っている。従って、複数の訪問医が健康管理に携わっている。主治医は毎月「居宅療養指導書に関わる連絡票」により在宅療養生活のポイントを送付している。緊急時には、主治医を通して対応が速やかに出来ている。笑顔あふれる事業所が見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時管理者、施設長、職員と、さざなみ京都南の理念を唱えケアの実践に役立てています。	さざなみ本部の理念「楽しく、自由に、ありのままに」と共に「残された力で暮らす喜び」「家庭的な、愛にあふれた暮らしを」「地域との交流と連携を図る」とした事業所の理念を全職員が朝礼で唱和して、心温まる支援を心掛けている。管理職は、やさしい言葉がけに留意する様に職員を指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月末に近隣の公園や道路のゴミを拾い集めています。上鳥羽一斉清掃にも参加させて頂きました。	町内会に一住民として参加し、回覧板により地域の情報を得ている。定期的な地域周辺の清掃時には「御苦労さんです」と言葉を交わしている。地域の夏祭りには出掛けて地域住民と交流している。職員は、夜店でスーパーボールのゲームを担当している。近在の小学校の七夕コンクールに参加して笹飾りをして子供達とのふれ合いの機会も持っている。今後、五階の部屋を地域交流の場として提供する事も検討している。	地域住民との交流に努めておられ少しづつ成果が上がっているようですが、より広く事業所の役割を知って貰う手段の一つとして回覧板の利用は如何でしょうか？自治会の了解も必要ですが、許されるならば、事業所の介護サービスの内容やイベントの紹介等の「ちらし」を回覧板に情報提供という形で入れて貰えたらより理解が深まると考えられます。ご一考を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間の行事(クリスマス会や夏祭り、老人会のいも掘り等)を通じて地域の方の参加を募り認知症を理解して頂くように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催して利用者さんの近況報告やレクリエーションの報告をし、参加して頂いている利用者さんの意見を出して頂きサービスの向上に活かしています。	会議には、自治会長・民生児童委員・地域包括支援センター職員・入居者・家族・後見人(司法書士)の方々と施設長・管理者・介護支援専門員が出席している。行事報告・近況報告の後、意見交換を行っている。入居者から、「コーヒーを飲みに行きたい」という希望が出て、一階に喫茶コーナーを設け希望に応じて二～四階のグループホームの方も降りてきて楽しんでいる。その他、認知症サポーター養成講座開催希望が出され検討している。活発な意見交換が行なわれている。	会議は、情報・意見交換等が熱心に行なわれていますが、出された意見の対処についての報告が見当たりませんでした。今回の会議に「検討した内容」や「実践した事」「結果」等報告し記録に残される事で、より信頼感が強まって有意義な会議になる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新や区分変更、利用者さんの面接等ケアサービスの取り組みに関して意見交換をしています。	区役所の担当課には、運営推進会議の会議録を持参したり介護保険の手続きに訪問した際に意見・情報交換を行っている。支援に関しての相談も随時行って、協力関係を築く様に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止の対象となる行為を理解して、職員は日々のケアにおいて拘束をしないように見守りを中心努めています。	「身体拘束の排除の為に取り組み」「精神的ケア」について年間研修計画に組み入れ実施している。身体的・精神的に抑制する事の無い様に全職員が学んでいる。過去に無断外出を経験した事から各フロアのドアは施錠しているが、外出を希望されたら職員が付き添って出掛けている。又、きつく受け取れる様な言葉遣いをしない様に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で勉強会を開き相手の立場に立ってケアをする重要性を学ぶ機会を作って、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度のセミナーには管理職、職員は積極的に参加し、セミナーで学んだ事は職員会議等で発表し、活用できるように話し合っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約や個人情報に関して納得して頂く書類を用意し、同意して頂いたら署名押印して頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者さんと家族さんに出席して貰い、運営に関する意見や、提案をして頂き、それらを反映させています。	運営推進会議に入居者・家族が出席し、意見や要望を聞く機会にしている。日常的には、会話や表情・行動等で入居者の要望等聞き取っている。家族等からは、来所時の会話の中から拾いあげている。意見として、「月に一度コーヒーを飲みに行きたい」との希望を受け、一階に喫茶コーナーを設けて楽しんで貰っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議の前40分位、各フロア一会議を開き、フロア職員の意見交換を行い、職員会議で発表していただいています。	職員の意見や提案は、日常的な業務の中での気づきを話し合ったり、フロア会議や職員会議でも意見交換を行っている。「各フロアのレクリエーションを発表して共有しては?」「入浴介助の改善について」「会議の持ち方」等活発に意見が出ている。出された意見を話し合い、工夫を重ねながら改善を試みている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを活用し、それに対してのフィードバックをすることで評価し、給与に反映するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	京都福祉人材育成制度を活用して、個々に応じた研修を受けて貰っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループワークの多い外部研修に出て頂く事で、同業者さんとの交流を図っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のケアの中で立位のできない利用者さんのトイレ介助等、一人介助が困難な場合は、安全を確保する為二人介助で無理のないように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族さんから生活歴や本人さんの性格等詳しくお聞きして、ご本人が家族的な暮らしが出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族さんとの面談で何を必要とされているのかを見極め、職員とミーティングを重ねながらサービスを提供していきたいです。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんを家族と思い、自分がして欲しい事、して貰いたくない事を見極め生活を共にしていくように努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一筆箋で、利用者さんの近況を家族さんにお伝えし、絆を大切に作る関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人が畑で採れた野菜を持って面会に来られた時、にこやかに対応し、昔話をして楽しんでおられます。	幼馴染の友人が、自宅の畑で収穫した野菜を持って来所される事があり、おしゃべりを楽しんでいる。頂いた野菜は、職員と漬物等にしてみんなで分け合っている。友人宅を訪問する事もある。季節の服を買いに馴染みの店に行ったり美容室に出掛けたりもしている。地域の夏祭りに出掛けて旧知の人との出合いを喜んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	テーブル席の隣、前、になるべく気の合う人 に座って貰いゲーム等する時に一つのテー ブルに集まって貰い和気あいあいなレク レーションを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても一筆箋や電話で近況をお 尋ねして様子を伺っています。家族さんから の相談もお受けしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人ずつの言葉に耳を傾け、どうしたら楽し く生活していけるかを話し合ったりしている。	初回面接時に、本人・家族等から生活歴や心身の 状況・今後の暮らしの要望等聞き取っている。入 居後は、日々の会話や行動・表情等から「その人 の思い」を把握する様に努めている。把握した情 報は記録に残し全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	今迄の生活歴に沿いながら無理強いはな るべくしないようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの持っている力を出して貰い過 度な干渉はしない様にそいでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	フロアミーティングで職員の介護の方向 性を話し合い、本人や家族さんの意見も取 り入れて介護計画を作成しています。	日々の介護支援記録から介護サービスの状況を 纏め、更に家族等や主治医・看護職からの意見も 参考にしながらフロア会議でモニタリングしてい る。その結果を踏まえ、介護計画作成者が介護計 画を作成している。状況の変化があれば、速やか に話し合い介護計画の見直しを行い、現状に即し た介護計画になる様に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケア、きずき、工夫等記録 に記入し、毎日の職員間申し送り、情報 を共有しながら確認し、反映しています。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (4F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に2~3回出張パン屋さんが来られ、各フロア順番にお好きなパンやお菓子を選んで買われ、嬉しそうな表情で居室に戻られます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設のまわりが田畑や公園で、四季折々で風景が違い、春は桜見物等、散歩を楽しむ事ができます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院、診療所から定期的に一人ひとりの往診があり、適切な医療が受けられるように支援しています。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の希望を尊重している。殆どの入居者は協力医療機関を選択している。それぞれ個人に主治医が決まっており、毎月往診を受けて健康管理ができています。定期的に受け持ち患者の情報や注意事項がFAXで送られてくる。緊急時の対応も主治医を通して速やかに行われる体制が出来ている。訪問歯科医により「口腔ケア」も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中で、いつもと違うなと気づいた時各々に話しかけ、異常があれば看護師に相談するようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の時看護師又は管理者が付き添い、病院の関係者と情報交換や相談ができるように関係作りをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方向等、家族と主治医、事業所のできる事を話し合いながら支援に取り組んでいます。	入居時の契約時に、重要事項説明書や看取りの指針についての文書を基に事業所の考え方を説明し理解して貰っている。重度化・終末期を迎えようとした時には、家族等・主治医・事業所等関係者で話し合い、その人にとって最も適切な方法を選択していく考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発熱時、38度近くまで上がった時、三点クーリングする事の実践に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し訓練を行っています。火災避難訓練は年二回行っています。施設独自の避難訓練も検討しています。	消防計画に基づき、消火用設備等の点検と共に消防署員の協力を受けて消火・避難訓練を定期的実施している。更に、京都市シェイクアウト訓練に参加し、全職員が地震災害等に対する認識を深める様に努めている。今後もより安全な方策を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉でやさしく謙虚で、プライバシーを損ねない言葉かけに気をつけています。	研修計画に「接遇」「プライバシー保護の取り組み」に関する事項を組み入れ、一人ひとりを大切にする支援に努めている。「職員の心がまえ」の一つに、入居者様お一人おひとりの存在と尊厳を認め受け入れる事でお一人おひとりに、「生まれてきてよかった」と思っていただけの介護施設となる。と明記し全職員に伝えている。特に、声掛けを含め言葉遣いには留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し、本人のできる事を自主的にして頂くように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日いちにちを大切に過ごしてもらえるように心がけ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問カットに来て頂き、髪を整えて貰ってます。ご希望があれば、利用者さんと洋服を買いに行きます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後かたづけ、利用者さんのできる範囲でお手伝いして貰うように支援しています。	昼食・夕食は給食会社から「ゼロクック」として調理加工されて届けられるので、職員は解凍・加熱のみで食事を提供している。朝食は、パンやヨーグルト・バナナ等職員が用意している。食卓のセッティングや後片付けは、入居者と職員と一緒にやっている。近在の特産物である九条ネギをたっぷり使ったネギ焼パーティーを開きカラオケと共に楽しんだりしている。裏庭の菜園や各階のベランダで収穫した野菜や果物を一品に加える事も楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を計算して記録しています。食事量も記録し、栄養バランスはカロリー計算ができています。チルド食です。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (4F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は歯磨きや口をすすいで頂く事を記録しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の声掛けをし、自立歩行の方は見守り、介助の方は車いすですでトイレにお連れし、トイレ内で排出できるように支援しています。	排泄記録を参考に適宜トイレへの声掛け・誘導を行っているが、半数位は自立出来ているので、そっと見守っている。入居時車いす利用だったが、手引き歩行でトイレに行ける様になり、表情が大変明るくなった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ボール遊び等身体を動かせるレクレーションを取り入れ、水分を沢山摂取して頂くような取組をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身ともにゆっくり入浴して頂くように、女性の場合は女性職員が介助するようにしています。	暑い夏場は、シャワー浴にしているが、浴槽に浸かりたいと希望される場合には希望に沿って対応している。入浴時間は午後をあてている。希望により同性介護にも応じて、出来る限り本人の意志を尊重している。ゆずの季節には職員が持参したゆずで「ゆず湯」にして楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のタイミングで就寝して貰い、2時間おきに各居室の巡視に回って、異常がないかを確認しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターから処方薬がだされると、処方箋をファイルに綴じ用法や副作用等誤薬がないように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いしないよう、洗濯物をたたんでもらったり食器の洗い物をして貰ったり協力して貰い、天気の良い日にはコンビニでコーヒを飲みに行っています。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (4F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族さんのおられる方は外食にでられません。以外の方は、職員が同行し、「何が食べたいですか」と聞きお店にお連れします。	日常的には、天候に応じて近くのコンビニや公園等に散歩を兼ねて出掛けている。スーパーでの買い物や外食を希望される場合は、本人の希望に沿って外出している。「幸せの花びらピクニック」と称して、職員手作りのお弁当持参で近くの公園で花見したり、城南宮にお参りに出掛けたりもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コンビニやスーパーでお財布を持ちジュースや飴を買ったりし、あといくらあるのか、職員と利用者が数えたりします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話したいとの希望があれば、時間帯に配慮しながら連絡を取るようになっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	京都のいろんな景色の写真や、その時々々の季節に合った貼り絵等をみんなで作り、壁に飾って楽しんでいます。	共用空間は全体に清潔感があり、静かな雰囲気がある。フロアの入り口には、入居者全員の笑顔あふれるポर्टレートが飾られている。あたたかも来訪者を歓迎する様である。リビングは南側に大きく窓をとり、適度な明るさがある。食卓を兼ねるテーブルを配し、テレビが見やすい様にソファも置いて、落ち着いた生活環境を作っている。窓の外のベランダにはプランターで季節の野菜を植えている。不快を感じる様な音や臭いもない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席は決まっていますが、食事が終わると自由にどの場所に座ってもよいようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族さんと相談しながら、今まで使っていて気に入った家具等を居室において貰い、家族写真も飾って頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアでの利用者さんに対する接しかたで本人が「できること」「わかること」を見出しADLを高めて自立した生活を送って頂くように努めています。		